

令和4年度 第1回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

令和4年6月28日（火） 10:00～12:00

2 開催場所

札幌市役所本庁舎18階 第四常任委員会会議室

3 出席者

(1) 委員

中川委員長、杉浦委員、西村委員、松村委員、山上委員

(2) 札幌市職員

財政局長、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、他7名

4 次第

(1) 開会

(2) 委員長選出

(3) 職務代理者の決定

(4) 報告事項

ア 政府調達協定の対象契約について

イ 参加停止措置状況について

ウ 工事等発注状況について

エ 工事検査について

(5) 令和4年度委員会開催予定について

(6) その他

(7) 閉会

5 審議概要

(1) 委員長選出

委員の互選により、中川委員が委員長に就任した。

(2) 職務代理者の決定

委員長の指名により、松村委員が職務代理者に決定した。

(3) 報告事項

ア 政府調達協定の対象契約について

【委員】役務の発注の際、発注方式を総合評価にするか否かを決定する基準はあるか。

【札幌市】清掃業務の政府調達案件は総合評価で発注することとしている。その他の案件は、各発注部局の判断による。

【委員】システムの更改に係る契約は随意契約で行っていると思うが、ベンダーロックインの問題について、予算執行との関係でどのように考えているか。

【札幌市】システムの更改等に係る随意契約の金額は、予定価格に対して高い割合になることが多いと認識している。一方で、予定価格の基礎となる予算については、査定の中でライフサイクルコストを考慮している。

【委員】ベンダーロックインについては全国的に議論があるところだと思うが、国から指針等を示されることはないのか。

【札幌市】国では、自治体情報システムの標準化を検討している。標準化することで、特定のベンダーにしか履行できないという状況を解消し、入札に付すことができるようになる。

【委員】システムのランニングコストについて総合評価で評価することはできないか。

【札幌市】総合評価やプロポーザル方式を活用し、ランニングコストの評価を行うことも考えられるが、事例の有無については確認が必要である。

【委員】事例の有無について、後日報告願いたい。

【委員】令和3年の一般サービスの契約金額が大幅に増加しているが、これは何故か。

【札幌市】中央区役所複合庁舎の整備事業が増加額のほとんどを占めている。

イ 参加停止措置状況について

【委員】アスファルト舗装に必要な乳剤散布の未施工が判明したという事例について、市民の通報により判明したとのことだが、これは本来工事監督員の管理の中で気が付くべきものではないか。

【札幌市】施工状況については、各種の検査で確認している。今回の通報は検査前に行われたため、まだ確認できていない段階だったが、通常は検査を行えばその時点で判明することになる。

【委員】参加停止の基準としては、過失・欠陥等の事柄の重要性と、それらの隠ぺい等の悪質性とは、どちらに比重を置いて判断するのか。

【札幌市】過失の内容にもよるので一概には言えないが、乳剤散布の未施工については、施工できない事情等を報告してしゅん功までに施工しておけば問題ないにも関わらず、それを報告せずにしゅん功しようとした点を重く見て参加停止としている。

ウ 工事等発注状況について

【委員】平成29年度から工事の件数が大きく減少しているが、長期的な特徴はあるか。

【札幌市】大型発注の谷間の期間があったり、工種別に見れば年度ごとに増減があったりと、様々な理由があり、一律に説明できる特徴はない。一方で、予算規模を見るとそれほど変化はなく、必ずしも発注規模が縮小されているわけではない。建設事業費については、老朽化更新や国土強靱化の観点から進めていくことになるので、今後も増額となる見込み。

エ 工事検査について

【委員】ゼロカーボン推進に向けた取組の評価については、札幌市独自のものか。

【札幌市】国と北海道と札幌市とで連携を取って進めている。具体的な評価対象については、国の指針を参考にしている。

【委員】ICT施工についての加点はあるか。

【札幌市】「創意工夫」の項目で評価している。

【委員】ICT施工等の取組を行うと、受注者の費用負担は増加するのか。

【札幌市】札幌市が予め設計変更の対象としている取組については、実際の取組状況に応じて費用を設計金額に反映している。対象外のものであっても、取組を行うことで、人件費の削減や工期の短縮等、別のコストを削減できることもあるので、取組内容によって異なってくると思われる。

【委員】工事成績評定点の平均が年々上昇しているように見えるが、どのような背景があるのか。

【札幌市】受注者が創意工夫や地域貢献に積極的になっているところがある。また、週休2日試行工事に注力しており、週休2日を達成すると加点される仕組みとなっている。より多くの工事を週休2日試行工事として発注するようになってきたため、加点される工事も増えてきているという状況である。

(4) 令和4年度委員会開催予定について

今年度の委員会開催予定について決定した。

(5) その他

ア 市況連動型失格判断について

【委員】有意水準を5%とするということは、統計的には、普通ではないところに至らないギリギリの金額を落札の下限とすることになる。そうした入札を続けていくと、落札率が低下していくことも十分考えられる。

【札幌市】落札率については、低下していく可能性も現段階では否定できない。しかし、そうした状況は札幌市の意図する結果ではないので、今年度の試行の結果、落札率の低下が顕著に見られるようであれば、改善等の検討を行う。

【委員】他の自治体でこの制度を導入しているところはあるのか。

【札幌市】統計的な推定による手法を採用している自治体は、把握している限りでは無い。

イ 抽出工事等の選定

次回の抽出工事等の選定は、松村委員が行うことを決定した。